ＳＴＥ　（Shiroi Teaching Expert）の授業紹介　Ｎｏ．１２

白井市立池の上小学校　　鈴木　千恵子　先生　（書写）

１２月１４日（火）、２年生の書写の授業でした。小学校２年生の書き初めは、フェルトペンを使って書きます。課題は「元気な子」です。今までは、書写は読んで字のごとく「書き写す」学習、「お手本をよく見て書きましょう。」という指導がほとんどだったのではないでしょうか。

しかし、新学習指導要領では書写にも３観点が示されています。鈴木先生の授業はまさしく、新学習指導要領に則った授業でした。

工夫１　書写の体操でウォーミングアップ

２年生の書写の教科書に「しょしゃの体そう」があります。それをスクリーンに映し、全員立って全身で「しょしゃ体そう」を行います。「止め！」「とん、すうっ、ぴたっ。」「はね！」「とん、すうっ、ぴたっ、ぴょん。」書写の言葉を使って、ポイントを全身で学びます。子供たちは楽しそうに動きながら、点画の基礎を身に付けていきます。

この体操を行ってから、漢字の間違いがあまりないそうです。間違えたとしても、「ここは、そりだね。」等と言うだけで理解して正しく書けるようになっているそうです。

この体操のデータを、**全体共有　ー　03全小中学校関係業務フォルダ　ー　書写**　の中に保存してくださいました。低学年の書写に是非御活用ください。

工夫２　考える書写（教材でしかけを作って、問題解決型の学習に）

初めに先生のお手本をスクリーンに映すと「上手！」パチパチ・・・、という子供たちの反応。普段の学級経営の温かさを感じました。ところが先生は「実はね、ちょっと失敗しちゃった所があるんだけど。どこだと思う？」と困った顔で質問しました。「えっ、ううんと・・・。あっ、分かった。」「はい！」「はい！」たくさんの手が元気に挙がりました。

その後、子供たちの意見から文字のポイントを確認していました。「どう書けばいいか分かったぞ！」「よし、上手に書こう。」と意欲が高まりました。自分で見つけてうまくなりたいと思って取り組む、まさに学びに向かう力を育てる「自ら考える書写」の実現です。

「僕が世界一うまい『子』を書くぞ！」と意気込んで取り組む声が聞こえました。書いた後も「見て見て。」と自然に見せ合う姿があちらこちらに見られました。満足の１時間となりました。

工夫３　使いやすい道具の工夫

低学年に水書筆を使った指導が入りました。様々な道具がありますが、鈴木先生は、筆は普通の小筆と同じ形状の水書用筆、水入れは醤油を入れるプラスチックの小皿に給水クロスを敷いて使っています。水がこぼれない利点があり、更に穂先をそろえる練習にもなります。

★鈴木先生が大切にしていること★

・がんばっている姿を認めること。小さな上達を見つけて褒めている。ダメ出しはいらない。
・子供たちの指先を動かす経験が大切。自分の手でいろいろ工夫できる力を育てたい。